

12 久保遺跡 (0-12)

都留市大幡久保 県登録遺跡番号04043

遺跡の立地

大幡川左岸の河段段丘上、久保地遺跡の南東側、大幡川と丹沢川の合流点に舌状に突出した部分に位置す遺跡である。

表採により石器、特に石鏃のよく出土する地点として知られていたが、地元の小林一敬氏が数年にわたる表採の結果、すぐれた石鏃を多数所持している。昭和43年都留文科大学考古学研究会によって発掘調査が行なわれた。発掘の結果、有舌尖頭器と思



第12図 久保遺跡位置図

われる石器と縄文時代草創期から後・晩期に至る遺物の出土を伝えているが、発掘面積が余りにも狭いため詳細については不明である。ともあれ昭和42年12月『甲斐考古』10号に山本寿々雄氏が細石器、有舌尖頭器の出土を伝えている河岸段丘の遺跡であるので、注目すべき遺跡の一つである。県遺跡番号04043 標高470m。

遺物

本遺跡からは、縄文時代後・晩期を中心に、土器・石器類がかなり確認されている。

遺跡の現況

遺跡の周囲は、現在畑となっている。